

徳島県支部

農業ビジネスの活性化戦略に関する調査研究

～生産者視点からのアプローチ～

地域産業の停滞、高齢化、人口減少等、今地方は厳しい状況に置かれている。

これまで、工場や大規模商業施設の誘致等による打開が図られてきたが、グローバル経済の進展によりこれも現在は頓挫しているといっているだろう。

地域の産業構造からみて、主産業である農業を核に地域再生を図るという手法が注目を集めている一方、この農業が思うように収益につながらないというのが現状といえる。

私たちは、地域における農業問題の改善のため、農業が儲かるビジネスとなるために必要と思える知識をまとめることとした。この調査報告に関わった者は全員、農業に関わったことのないビジネスの専門家である。いわば農業の門外漢が、生産者の視点から議論を展開し、ビジネスとしての農業が成功するモデルを探求することとした。

第1章では、日本や徳島の農業の現状を統計的に表すとともに、日本の農業を考える上でこれまで重要な役割を果たしてきたJAについて、歴史的な経緯とともに考察した。そのうえで、今後の日本農業を成功させるキーワードとしてマーケットインとネットワークの構築を提唱した。そしてこれを全国的にも名をはせた各地いどりの成功要因として、事例をあげながら分析してみせている。

第2章では、販売・流通の問題を考えながら、利益創出のポイントについて考察した。まず、地域の農産物のブランド戦略、そして現在伸長している産直市、契約栽培をマーケティング・チャネル戦略の観点から診た。さらに現在政策的に進められている6次産業化についても、事例を検証するとともに、現状の課題について政策的提言を試みている。またITを活用した販路開拓の可能性についても、自らの起業体験を通じて論じた。最後に、新しいかたちでの対面販売・リアルマーケティングを提唱している徳島マルシェを紹介した。

第3章では、組織経営ということで、特に地域の特質を考えるために、共同体としての経営のあり方を考察した。次に、地域リーダーが果たす役割と育成を当地の事例をもとにして論じた。

第4章では、まずSWOT分析やバリューチェーン分析といった経営コンサルタントとしての診断ツールを活用したビジネスモデルの構築、戦略的思考を提案している。次に、生産農家が目指すべき方向性や地産地消の仕組みづくりを具体的に示した。最後に地域の農業ビジネスを拡大するために、ファイナンスの重要性を説くとともに、地域金融機関を中心とした農業ビジネスを産業化するためのスキームを考察した。

この報告書が、現在農業に携わっている方々、食に関する事業に関わっている方々、農商工連携等の施策運営に関わっている方々に、少しでもお役にたつことができるなら幸いである。